

設置年度 令和 2年度
計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2
国際医療福祉大学 福岡薬学部 薬学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人国際医療福祉大学
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	事務部学務課教務係
職名・氏名	カガミヨウ ムラヤマ ヤスエ 係長 村山 康恵
電話番号	0944-89-2031
(夜間)	0944-89-2031
e-mail	okawa-kyomu@iuhw.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
- 例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：△△学科 (平成△△年度より学科名称変更))
- 表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
- 例)
- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
 - 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 - 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 - 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 - 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 - 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 □□研究科」
 - 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 □□研究科 □□専攻 (修士課程)」
 - 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科 (通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

福岡薬学部

ページ	<薬学科>
3	1. 調査対象大学等の概要等
7	2. 授業科目の概要
22	3. 施設・設備の整備状況、経費
23	4. 既設大学等の状況
25	5. 教員組織の状況
42	6. 附帯事項等に対する履行状況等
43	7. その他全般的事項

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人国際医療福祉大学

(2) 大 学 名

国際医療福祉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒831-8501

福岡県大川市榎津137-1 (栃木県大田原市北金丸2600-1)

- (注) ・ 対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・ 対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成7年4月)		
学 長	(オオトモ クニ) 大友 邦 (平成28年4月)	(ズスキ ヤスヒロ) 鈴木 康裕 (令和4年4月)	任期満了に伴う変更 (4)
学 部 長	(タケダ ヒロシ) 武田 弘志 (令和2年4月)		
学科長等	(タケダ ヒロシ) 武田 弘志 (令和2年4月)		

- (注) ・ 「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・ 大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・ 大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)
 - 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
 - なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
福岡薬学部 薬学科 学士（薬学）	薬学関係	6年	120人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	720人		

- (注)
 - 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
 - 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	人 人	人 人	120人	一人	120人	一人	120人	一人	120人	一人	120人	一人						
志願者数	- (-) [-]	1,267 0	0	1,070 0	0	1,097 0	0	985 0	0									
受験者数	- (-) [-]	1,242 0	0	1,054 0	0	1,080 0	0	954 0	0									
合格者数	- (-) [-]	391 0	0	339 0	0	357 0	0	326 0	0									
B 入学者数	- (-) [-]	131 0	0	123 0	0	129 0	0	123 0	0									
入学定員超過率 B/A	-	-	1.09		1.03		1.08		1.02									

- (注)
 - 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 - 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ））書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - 転入学生は記入しないでください。
 - 〔 〕内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 - なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 - 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 - なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 - 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 - なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	—	—	—	—	131	—	134	—	145	—	129	—	
	[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	[(11)	[(-)	[(16)	[(-)	[(6)	[(-)	
2年次							115	—	121	—	142	—	
							[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	
3年次								106	—	124	—		
								[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	
4年次									92	—			
									[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	
計	—	—	131	—	249	—	372	—	487	—			
	[(-)	[(-)	[(-)	[(-)	[(11)	[(31)	[(27)						

- (注) · 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ()内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)	
			入学した年度	退学者数			
				うち留学生数			
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人		
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人		
			令和元年度	- 人	- 人		
令和2年度	131 人	5 人	平成30年度	- 人	- 人		
			令和元年度	- 人	- 人		
			令和2年度	5 人	- 人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への転学(4名)	
令和3年度	249 人	6 人	平成30年度	- 人	- 人		
			令和元年度	- 人	- 人		
			令和2年度	4 人	- 人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への転学(2名) 学力不足(1名)	
			令和3年度	2 人	- 人	他の教育機関への転学(2名)	
令和4年度	372 人	8 人	平成30年度	- 人	- 人		
			令和元年度	- 人	- 人		
			令和2年度	3 人	- 人	進路変更検討[就職](2名)、心神耗弱(1名)	
			令和3年度	4 人	- 人	就学意欲の低下(1名)、他の教育機関への転学(2名)、学力不足(1名)	
			令和4年度	1 人	- 人	他の教育機関への転学(1名)	
令和5年度	487 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人		
			令和元年度	- 人	- 人		
			令和2年度	- 人	- 人		
			令和3年度	- 人	- 人		
			令和4年度	- 人	- 人		
			令和5年度	- 人	- 人		
合 計		19 人		19 人	0 人		

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。在学者数から退学者数を減らす必要はありません。
 ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
 ・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{131} = \boxed{3.81} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{249} = \boxed{2.4} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{372} = \boxed{2.15} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{487} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜福岡薬学部 薬学科＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人間系	文学論	1前	2	2							兼任1
	演劇論	1後	1								兼任1
	心理学	1前	2	2							兼任1
	哲学	1前	2	2							兼任1
	コミュニケーション概論	1前	2	2							兼任1
	雑談と傾聴～話す力と聞く力～	2前	2	2							兼任1
	人間学	1前	2	2							兼任1
	倫理学	1後	2	2							兼任1
	宗教学	1後	2	2							兼任1
	日本近現代史	1後	2	2							兼任1
社会系	文化人類学	1前	2	2							兼任1
	教育学	1後	2	2							兼任1
	死生学-死を通して生を考える-	1前	2	2							兼任1
	法学	1前	2								兼任1
	日本国憲法	1前	2								兼任1
	社会学	1後	2								兼任1
	国際関係論	1前	2								兼任1
	国際医療福祉論	1後	2								兼任1
	組織運営管理論	1前	2								兼任1
	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	2前	1								兼任1
総合教育科目	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	2通	1								兼任1
	社会保障制度論	1前	2								兼任1
	ボランティア論	1後	2								兼任1
	経済の仕組み	1後	2								兼任1
	統計学	1後	2								兼任1
	数学	1後	2								兼任1
	物理学	1前	2	2							兼任1
	化学	1前	2		1						兼任1
	生物学	1前	2		1						兼任1
	情報処理	1前	1								兼任1
自然・情報系	生命倫理	1後	2								兼任1
	医学／医療史	1前	2								兼任1
	大学入門講座Ⅰ（基礎）	1前	1								兼任1
	大学入門講座Ⅱ（展開）	1前	1								兼任1
	郷土論～大川学～	1前	1								兼任1
	医療福祉教養講義	1後	1								兼任1
	メディカルマナー入門	1前	2								兼任1
	英語講読1 (Primary)	1後	1								兼任1
	英語講読2 (Basic)	2前	1								兼任1
	英語CALL1 (Primary)	1前	1								兼任1
外国語系	英語CALL2 (Basic)	2後	1								兼任1
	英会話	1後	1								兼任1
	実用英会話	2前	1								兼任1
	医学英語Ⅰ（入門）	1前	1								兼任1
	医学英語Ⅱ（応用）	1後	1								兼任1
	資格英語1 (Primary)	1前	1								兼任1
	資格英語2 (Basic)	1後	1								兼任1
	中国語	1通	2								兼任1
	実用中国語会話	2前	1								兼任1
	韓国語	1通	2								兼任2
外国語系	実用韓国語会話	2前	1								兼任1
	作文・読解Ⅰ（入門）	1前	1								兼任1
	作文・読解Ⅱ（応用）	1前	1								兼任1
	作文・読解Ⅲ（完成）	1後	1								兼任1
	文法・語彙Ⅰ（入門）	1前	1								兼任1

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		
人間系	文学論	1前	2	2							兼任1
	演劇論	1後	1								兼任1
	心理学	1前	2	2							兼任1
	哲学	1前	2	2							兼任1
	コミュニケーション概論	1前	2	2							兼任1
	雑談と傾聴～話す力と聞く力～	2前	2	2							兼任1
	人間学	1前	2	2							兼任1
	倫理学	1後	2	2							兼任1
	宗教学	1後	2	2							兼任1
	日本近現代史	1後	2	2							兼任1
社会系	文化人類学	1前	2	2							兼任1
	教育学	1後	2	2							兼任1
	死生学-死を通して生を考える-	1前	2	2							兼任1
	法学	1前	2								兼任1
	日本国憲法	1前	2								兼任1
	社会学	1後	2								兼任1
	国際関係論	1前	2								兼任1
	国際医療福祉論	1後	2								兼任1
	組織運営管理論	1前	2								兼任1
	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	2前	1								兼任1
総合教育科目	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	2通	1								兼任1
	社会保障制度論	1前	2								兼任1
	ボランティア論	1後	2								兼任1
	経済の仕組み	1後	2								兼任1
	統計学	1後	2								兼任1
	数学	1後	2								兼任1
	物理学	1前	2	2							兼任1
	化学	1前	2		1						兼任1
	生物学	1前	2		1						兼任1
	情報処理	1前	1								兼任1
自然・情報系	生命倫理	1後	2								兼任1
	医学／医療史	1前	2								兼任1
	大学入門講座Ⅰ（基礎）	1前	1								

【認可時又は届出時】

科目区分		授業科目的名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合教育科目	外国語系	文法・語彙Ⅱ(応用)	1前	1	1						兼1	兼任
		文法・語彙Ⅲ(完成)	1前	1	1						兼1	兼任
		発表・討論Ⅰ(応用)	1前	1	1						兼1	兼任
		発表・討論Ⅱ(完成)	1後	1	1						兼1	兼任
		医療福祉専門漢字	1前	1	1						兼1	兼任
	育 健 体	医療福祉専門語彙	1後	1	1						兼1	兼任
		日本語基礎Ⅰ(初級)	1後	1	1						兼1	兼任
		日本語基礎Ⅱ(初級)	1後	1	1						兼1	兼任
		健康科学理論	1後	1	1						兼1	兼任
		健康科学実践	1後	1	1						兼1	兼任
小計(65科目)			-	24	70	2	1	1			兼32	
専門基礎科目	学部共通	公衆衛生学	3後	2	1		1	2			兼1	兼任
		救急医学(救命救急を含む)	2前	2	1		1				兼1	兼任
		リハビリテーション概論	1前	2	2						兼1	兼任
		微生物と病気	1後	2	2		1				兼1	兼任
		関連職種連携論	2後	2	1						兼1	兼任
		ケアマネジメント論	2前	2	1						兼1	兼任
		保健医療福祉制度論	1前	2	1						兼1	兼任
		臨床心理学概論	1後	2	1						兼1	兼任
		関連職種連携ワーク	3前	1	1			1			兼1	兼任
	薬学科	関連職種連携実習	5前	1	1			1			兼1	兼任
		リスクマネジメント論	3前	2							兼1	兼任
		薬学演習Ⅰ(物理系等)	2後	1				1			兼1	兼任
		薬学演習Ⅱ(化学系等)	3前	1				1			兼1	兼任
		薬学演習Ⅲ(生物系等)	3後	1				1			兼1	兼任
		薬学計算	2前	1				1			兼1	兼任
		病原微生物学	3前	2			2	1			兼1	兼任
		コミュニケーション実習	2前	1			2	1			兼1	兼任
		基礎薬学実習Ⅰ(物理)	1後	1			2	1			兼1	兼任
		基礎薬学実習Ⅱ(生物)	1後	1			2	3			兼1	兼任
小計(19科目)			-	16	11	0	8	4	3	3	0	兼9
専門教育科目	専門科目	薬学概論	1後	2			1	1				兼任
		有機化学Ⅰ(脂肪族化合物1)	1後	2				1				兼任
		有機化学Ⅱ(脂肪族化合物2)	2前	2				1				兼任
		有機化学Ⅲ(芳香族化合物)	2後	2			1	1				兼任
		生薬学	2前	2							兼1	兼任
		天然物化学	2後	1							兼1	兼任
		医薬品構造化学	3後	1			1				兼1	兼任
		分析化学Ⅰ(溶液中の化学平衡と滴定法)	1後	2				1			兼1	兼任
		分析化学Ⅱ(機器分析、分離分析および臨床分析)	2前	2			1	1			兼1	兼任
		医薬品構造解析	2後	2			1	1			兼1	兼任
		薬品物理化学Ⅰ(物性とエネルギー)	1後	2			1	1			兼1	兼任
		薬品物理化学Ⅱ(平衡と変化)	2前	2			1	1			兼1	兼任
		放射化学	2前	1			1	1			兼1	兼任
		生化学Ⅰ(生体分子)	1後	2			1	1			兼1	兼任
		生化学Ⅱ(生体エネルギー・代謝)	2前	2			1	1			兼1	兼任
		分子生物学Ⅰ(遺伝情報・細胞内情報伝達)	2前	2			1	1			兼1	兼任
		分子生物学Ⅱ(細胞間コミュニケーション・遺伝)	2後	2			1	1			兼1	兼任
		解剖生理学Ⅰ(外皮系、骨格系・筋肉系、循環器系)	1後	2			1	1			兼1	兼任
		解剖生理学Ⅱ(神経系、内分泌系)	2前	2			4	4			兼1	兼任
		解剖生理学Ⅲ(消化器系、呼吸器系、泌尿器系)	2後	2			1	1			兼1	兼任
		がん薬物療法学	3前	2			1	1			兼1	兼任
		ゲノム医療	3後	1			1	1			兼1	兼任
		化学療法学	3後	2			1	1			兼1	兼任
		免疫学	3後	2			1	1			兼1	兼任
	専門教育科目	疾病と病態生理学Ⅰ(内分泌系、神経精神系疾患等)	2後	2			1	1			兼1	兼任
		疾病と病態生理学Ⅱ(循環器系疾患、消化器系疾患等)	3前	2			2	1			兼1	兼任
		疾病と病態生理学Ⅲ(呼吸器系疾患、代謝性疾患等)	3後	2			1	1			兼1	兼任
		薬理学Ⅰ(総論、末梢神経薬理等)	3前	2			1	1			兼1	兼任
		薬理学Ⅱ(中枢神経薬理、免疫・炎症薬理等)	3後	2			1	1			兼1	兼任
		薬理学Ⅲ(循環器薬理、消化器薬理等)	4前	2			1	1			兼1	兼任
		薬理学Ⅳ(呼吸器薬理、内分泌薬理等)	4前	2			2	2			兼1	兼任
		医薬品安全性学	4後	2			2	2			兼1	兼任

【令和5年度】

科目区分		授業科目的名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教		
総合教育科目	外国語系	文法・語彙Ⅱ(応用)	1前	1	1						兼任	兼任
		文法・語彙Ⅲ(完成)	1前	1	1						兼任	兼任
		発表・討論Ⅰ(応用)	1前	1	1						兼任	兼任
		発表・討論Ⅱ(完成)	1後	1	1						兼任	兼任
		医療福祉専門漢字	1前	1	1						兼任	兼任
	育 健 体	医療福祉専門語彙	1後	1	1						兼任	兼任
		日本語基礎Ⅰ(初級)	1後	1	1						兼任	兼任

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
専門教育科目	臨床検査医学	3前	2			1	1			
	薬物治療学Ⅰ（神経精神系疾患、内分泌系疾患等）	4後	2			2				
	薬物治療学Ⅱ（循環器系疾患、呼吸器系疾患等）	4後	2			1				
	薬物治療学Ⅲ（症例・病態解析）	6前	2			4	1			
	物理薬剤学	2後	2				1			
	製剤設計とDDS	4前	2			1				
	臨床薬学Ⅰ（調剤の基礎）	3後	2				2			
	臨床薬学Ⅱ（調剤の実践）	4前	2			1		3		
	臨床薬学Ⅲ（薬物療法の実践）	4後	2				1	3		
	臨床薬学Ⅳ（チーム医療・地域医療の実践その前に）	4通	1			1		2	3	
	薬物動態学	3後	2			1				
	臨床薬物動態学	4前	2			1				
	医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	3前	2				1			
	医薬品情報学Ⅱ（EBMと臨床研究）	6前	1			1		2		
	衛生化学Ⅰ（食品・栄養）	2後	2			1				
	衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）	3前	2			1				
	環境衛生学	3前	2			1				
	医療関係法規	4前	2			1		2		
	日本薬局方	3後	1				1			
	漢方医学Ⅰ（漢方の基礎）	3後	2				2			
	漢方医学Ⅱ（漢方の応用）	4前	1				1			
	OTC医薬品概論	3後	2				1			
	化学系薬学実習Ⅰ（有機合成）	2前	1			1	2	1		
	化学系薬学実習Ⅱ（天然資源）	2後	1			1	2	1		
	物理系薬学実習	2後	1			2	1	1		
	生物系薬学実習	4前	1			3	1	1		
	分子生物学実習	3前	1			2	3			
	臨床検査医学実習	3後	1			4	2			
	衛生系薬学実習	3前	1			2	2	1		
	早期体験実習	1後	1			2	3			
	医療系薬学実習Ⅰ（調剤の基礎と情報収集）	3後	1			1	3			
	医療系薬学実習Ⅱ（調剤の実践と服薬指導）	4前	1			1	3			
	病院・薬局事前実習Ⅰ（実務実習で必要な基本的知識）	4前	2			1				
	病院・薬局事前実習Ⅱ（実務実習で必要な基本的技能）	4後	2			1				
	病院・薬局実務実習Ⅰ（主に病院での実習）	5通	10			1		3		
	病院・薬局実務実習Ⅱ（主に薬局での実習）	5通	10			1		3		
	総合薬学演習Ⅰ（主として物理・化学・生物・衛生）	6前	1			1	1	1	1	
	総合薬学演習Ⅱ（主として薬理・薬剤・病態・実務）	6後	1			3	1	1		
	卒業研究	5通	4			19	0	0	0	
	小計(71科目)	-	140	0	0	19	9	4	5	兼2
合計(155科目)		-	180	81	2	19	9	4	5	0
卒業要件及び履修方法										

卒業要件 190単位
①総合教育 必修24単位
(人間系4単位、社会系4単位、自然・情報系11単位、総合系1単位、外国語系4単位)
②専門基礎 必修16単位
③専門 必修140単位
④総合教育科目・専門教育科目 選択10単位

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
専門教育科目	臨床検査医学	3前	2			1				
	薬物治療学Ⅰ（神経精神系疾患、内分泌系疾患等）	4後	2			2				
	薬物治療学Ⅱ（循環器系疾患、呼吸器系疾患等）	4後	2			4				
	薬物治療学Ⅲ（症例・病態解析）	6前	2			5				
	物理薬剤学	2後	2			1				
	製剤設計とDDS	4前	2			2				
	臨床薬学Ⅰ（調剤の基礎）	3後	2			2				
	臨床薬学Ⅱ（調剤の実践）	4前	2			1				
	臨床薬学Ⅲ（薬物療法の実践）	4後	2			1				
	臨床薬学Ⅳ（チーム医療・地域医療の実践その前に）	4通	1			2	1	2	1	
	薬物動態学	3後	2			2				
	臨床薬物動態学	4前	2			2				
	医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	3前	2			1	1	2		
	医薬品情報学Ⅱ（EBMと臨床研究）	6前	1			1		2		
	衛生化学Ⅰ（食品・栄養）	2後	2			2				
	衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）	3前	2			1				
	環境衛生学	3前	2			1				
	医療関係法規	4前	2			1		2		
	日本薬局方	3後	1			1				
	漢方医学Ⅰ（漢方の基礎）	3後	2			2				
	漢方医学Ⅱ（漢方の応用）	4前	1			1				
	OTC医薬品概論	3後	2			1	1	1	1	
	化学系薬学実習Ⅰ（有機合成）	2前	1			2	1	1	2	
	化学系薬学実習Ⅱ（天然資源）	2後	1			2	2	2	2	
	物理系薬学実習	2後	1			1		1	1	
	生物系薬学実習	4前	1			3	1	1	1	
	分子生物学実習	3前	1			2	3			
	臨床検査医学実習	3後	1			4	2			
	衛生系薬学実習	3前	1			2	2	1		
	早期体験実習	1後	1			2	3			
	医療系薬学実習Ⅰ（調剤の基礎と情報収集）	3後	1			1	3			
	医療系薬学実習Ⅱ（調剤の実践と服薬指導）	4前	1			1	3			
	病院・薬局事前実習Ⅰ（実務実習で必要な基本的知識）	4前	2			1				
	病院・薬局事前実習Ⅱ（実務実習で必要な基本的技能）	4後	2			1				
	病院・薬局実務実習Ⅰ（主に病院での実習）	5通	10			1				
	病院・薬局実務実習Ⅱ（主に薬局での実習）	5通	10			1				
	総合薬学演習Ⅰ（主として物理・化学・生物・衛生）	6前	1			1	1	1	1	
	総合薬学演習Ⅱ（主として薬理・薬剤・病態・実務）	6後	1			3	1	1	1	
	卒業研究	5通	4			19	0	0	0	
	小計(71科目)	-	140	0	0	17	9	6	5	

【令和4年度】

科目区分	授業科目的名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・ 兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
人間系	文学論	1前		2						兼1
	演劇論	1後		1						兼1
	心理学	1前	2							兼1
	哲学	1前		2						兼1
	コミュニケーション概論	1前	2							兼1
	雑談と傾聴～話す力と聞く力～	2前		2						兼1
	人間学	1前		2						兼1
	倫理学	1後		2						兼1
	宗教学	1後		2						兼1
	日本近現代史	1後		2						兼1
	文化人類学	1前		2						兼1
	教育学	1後		2						兼1
	死生学-死を通して生を考える-	1前		2						兼1
社会系	法学	1前	2							兼1
	日本国憲法	1前		2						兼1
	社会学	1後		2						兼1
	国際関係論	1前		2						兼1
	国際医療福祉論	1後		2						兼1
	組織運営管理論	1前		2						兼1
	海外保健福祉事情 I (講義)	2前	1							兼1
	海外保健福祉事情 II (実習)	2通	1							兼1
	社会保障制度論	1前		2						兼1
	ボランティア論	1後		2						兼1
	経済の仕組み	1後		2						兼1
総合教育科目	統計学	1後	2							兼1
	数学	1前	2							兼1
	物理学	1前		2						兼1
	化学	1前	2							兼1
	生物学	1前	2							兼1
	情報処理	1前	1							兼1
	生命倫理	1後	2							兼1
	医学／医療史	1前		2						兼1
総合系	大学入門講座 I (基礎)	1前	1				1			兼1
	大学入門講座 II (展開)	1前		1			1			兼1
	郷土論～大川学～	1前		1						兼1
	医療福祉教養講義	1後		1						兼1
	メディカルマナー入門	1前		2						兼1
外国語系	英語講読1 (Primary)	1後	1							兼1
	英語講読2 (Basic)	2前	1							兼1
	英語CALL1 (Primary)	1前	1							兼1
	英語CALL2 (Basic)	2後	1							兼1
	英会話	1後		1						兼1
	実用英会話 (未開講)	2前		1						兼1
	医学英語 I (入門)	1前		1						兼1
	医学英語 II (応用)	1後		1						兼1
	資格英語1 (Primary)	1前		1						兼1
	資格英語2 (Basic)	1後		1						兼1
	中国語	1通		2						兼1
	実用中国語会話 (未開講)	2前		1						兼1
	韓国語	1通		2						兼1
	実用韓国語会話	2前		1						兼1
外国語系	日本語科目	作文・読解 I (入門)	1前		1					兼1
		作文・読解 II (応用)	1前		1					兼1
		作文・読解 III (完成)	1後		1					兼1
		文法・語彙 I (入門)	1前		1					兼1

【令和3年度】

科目区分	授業科目的名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
人間系	文学論	1前		2						兼1
	演劇論	1後		1						兼1
	心理学	1前	2							兼任
	哲学	1前	2	2						兼任
	コミュニケーション概論 雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1前 2前	2	2						兼任
	人間学	1前		2						兼任
	倫理学	1後		2						兼任
	宗教学	1後		2						兼任
	日本近現代史	1後		2						兼任
	文化人類学	1前		2						兼任
社会系	教育学	1後		2						兼任
	死生学～死を通して生を考える～	1前		2						兼任
	法學	1前	2							兼任
	日本国憲法	1前		2						兼任
	社会学	1後		2						兼任
	国際関係論	1前		2						兼任
	国際医療福祉論	1後		2						兼任
	組織運営管理論	1前		2						兼任
	海外保健福祉事情 I (講義)	2前	1							兼任
	海外保健福祉事情 II (実習)	2通	1							兼任
総合教育科目	社会保障制度論	1前		2						兼任
	ボランティア論	1後		2						兼任
	経済の仕組み	1後		2						兼任
	統計学	1後	2							兼任
	数学	1前	2							兼任
	物理学	1前		2						兼任
	化学	1前	2							兼任
	生物学	1前	2							兼任
自然・情報系	情報処理	1前	1							兼任
	生命倫理	1後	2							兼任
	医学／医療史	1前		2						兼任
	大学入門講座 I (基礎)	1前	1							兼任
	大学入門講座 II (展開)	1前		1						兼任
	郷土論～大川学～	1前		1						兼任
	医療福祉教養講義	1後		1						兼任
	メディカルマナー入門	1前		2						兼任
外国語系	英語講読1 (Primary)	1後	1					1		兼任
	英語講読2 (Basic)	2前	1					1		兼任
	英語CALL1 (Primary)	1前	1					1		兼任
	英語CALL2 (Basic)	2後	1					1		兼任
	英会話	1後		1						兼任
	実用英会話 (未開講)	2前		1						兼任
	医学英語 I (入門)	1前		1						兼任
	医学英語 II (応用)	1後		1						兼任
	資格英語1 (Primary)	1前		1						兼任
	資格英語2 (Basic)	1後		1						兼任
	中国語	1通		2						兼任
	実用中国語会話 (未開講)	2前		1						兼任
外国語系	韓国語	1通		2						兼任
	実用韓国語会話	2前		1						兼任
	作文・読解 I (入門)	1前		1						兼任
	作文・読解 II (応用)	1前		1						兼任
日本語科目	作文・読解 III (完成)	1後		1						兼任
	文法・語彙 I (入門)	1前		1						兼任

【令和4年度】

科目区分		授業科目的名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合教育科目	外国語系	文法・語彙Ⅱ（応用）	1前	1								兼1
		文法・語彙Ⅲ（完成）	1前	1								兼1
		発表・討論Ⅰ（応用）	1前	1								兼1
		発表・討論Ⅱ（完成）	1後	1								兼1
		医療福祉専門漢字	1前	1								兼1
	育健系	医療福祉専門語彙	1後	1								兼1
		日本語基礎Ⅰ（初級）	1後	1		1						兼1
		日本語基礎Ⅱ（初級）	1後			1						兼1
		健康科学理論	1後		1							兼1
		健康科学実践	1後		1							兼1
小計(65科目)			-	24	70	2	1	2	1	1		兼32
専門基礎科目	学部共通	公衆衛生学	3後	2			1	1	1			兼1
		救急医学(救命救急を含む)	2前	1	2							
		リハビリテーション概論	1前	2	2		3	2	1			
		微生物と病気	1後	2	2							
		関連職種連携論	2後	2	1	1						
		ケアマネジメント論	2前	2	2							
		保健医療福祉制度論	1前	2	2							
		臨床心理学概論	1後	2	1	1	1	4	4			
		関連職種連携ワーク	3前	1	1							
	薬学科	関連職種連携実習	5前	1	1	2		1				
		リスクマネジメント論	3前									
		薬学演習Ⅰ（物理系等）	2後	1			1	4	1	2		
		薬学演習Ⅱ（化学系等）	3前	1			2	2	1	3		
		薬学演習Ⅲ（生物系等）	3後	1			1	3	2	3		
		薬学計算	2前	1			3	3	3	2		
		病原微生物学	3前	2				1				
		コミュニケーション実習	2前	1			2	1	3	1		
		基礎薬学実習Ⅰ（物理）	1後	1			1	1	1	2		
		基礎薬学実習Ⅱ（生物）	1後	1			2	2	1			
小計(19科目)			-	16	11	0	8	6	5	5		兼8
専門教育科目	専門科目	薬学概論	1前	2				5	3	2		
		有機化学Ⅰ（脂肪族化合物Ⅰ）	1後	2				1				
		有機化学Ⅱ（脂肪族化合物Ⅱ）	2前	2			1					
		有機化学Ⅲ（芳香族化合物）	2後	2			1					
		生薬学	2前	2								
		天然物化学	2後	1			1					
		医薬品構造化学	3後	1			1					
		分析化学Ⅰ（溶液中の化学平衡と滴定法）	1後	2								
		分析化学Ⅱ（機器分析、分離分析および臨床分析）	2前	2			1					
		医薬品構造解析	2後	2			1					
		薬品物理化学Ⅰ（物性とエネルギー）	1後	2			1					
		薬品物理化学Ⅱ（平衡と変化）	2前	2			1					
		放射化学	2前	1								
		生化学Ⅰ（生体分子）	1後	2			1					
		生化学Ⅱ（生体エネルギー・代謝）	2前	2				1				
		分子生物学Ⅰ（遺伝情報・細胞内情報伝達）	2前	2				1				
		分子生物学Ⅱ（細胞間コミュニケーション・遺伝）	2後	2			1		1			
		解剖生理学Ⅰ（外皮系、骨格系、筋肉系、循環器系）	1後	2			1					
		解剖生理学Ⅱ（神経系、内分泌系）	2前	2			1					
		解剖生理学Ⅲ（消化器系、呼吸器系、泌尿器系）	2後	2			2		1			
		がん薬物療法学	3前	2			1		1			
		ゲノム医療	3後	1								
		化学療法学	3後	2			1					
		免疫学	2後	2			2		1			
	専門教育科目	疾病と病態生理学Ⅰ（内分泌系、神経精神系疾患等）	2後	2			3		1			
		疾病と病態生理学Ⅱ（循環器系疾患、消化器系疾患等）	3前	2			2					
		疾病と病態生理学Ⅲ（呼吸器系疾患、代謝性疾患等）	3後	2			2					
		薬理学Ⅰ（総論、末梢神経薬理等）	3前	2			1		1			
		薬理学Ⅱ（中枢神経薬理、免疫・炎症薬理等）	3後	2			1					
		薬理学Ⅲ（循環器薬理、消化器薬理等）	4前	2			1					
		薬理学Ⅳ（呼吸器薬理、内分泌薬理等）	4前	2			1					
		医薬品安全性学	4後	2			1					

【令和3年度】

科目区分		授業科目的名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合教育科目	外国語系	文法・語彙Ⅱ（応用）	1前	1								兼1
		文法・語彙Ⅲ（完成）	1前	1								兼1
		発表・討論Ⅰ（応用）	1前	1								兼1
		発表・討論Ⅱ（完成）	1後	1								兼1
		医療福祉専門漢字	1前	1								兼1
	育健系	医療福祉専門語彙	1後	1								兼1
		日本語基礎Ⅰ（初級）	1後	1								兼1
		日本語基礎Ⅱ（初級）	1後			1						兼1
		健康科学理論	1後		1							兼1
		健康科学実践	1後		1							兼1
小計(65科目)			-	24	70	2	1	2	1			

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 担当	
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教		
専門教育科目	臨床検査医学	3前	2			1					
	薬物治療学I（神経精神系疾患、内分泌系疾患等）	4後	2			3					
	薬物治療学II（循環器系疾患、呼吸器系疾患等）	4後	2			1			1		
	薬物治療学III（症例・病態解析）	6前	2			5		1	1		
	物理薬剤学	2後	2			1					
	製剤設計とDDS	4前	2			1					
	臨床薬学I（調剤の基礎）	3後	2			2		1			
	臨床薬学II（調剤の実践）	4前	2			1		1			
	臨床薬学III（薬物療法の実践）	4後	2			1		1			
	臨床薬学IV（チーム医療・地域医療の実践その前に）	4通	1			1	1	2			
	薬物動態学	3後	2			2					
	臨床薬物動態学	4前	2			2					
	医薬品情報学I（医薬品情報の収集と活用）	3前	2			1	1	2			
	医薬品情報学II（EBMと臨床研究）	6前	1			1		2			
	衛生化学I（食品・栄養）	2後	2			1		1			
	衛生化学II（毒性・代謝）	3前	2			1					
	環境衛生学	3前	2			1					
	医療関係法規	4前	2			1		2			
	日本薬局方	3後	1			1	1	1	1		
	漢方医学I（漢方の基礎）	3後	2			1	1				
	漢方医学II（漢方の応用）	4前	1			1	2				
	OTC医薬品概論	3後	2			1	1	1	2		
	化学系薬学実習I（有機合成）	2前	1			1	1				
	化学系薬学実習II（天然資源）	2後	1			1	2		2		
	物理系薬学実習	2後	1			1	1	1	1		
	生物系薬学実習	4前	1			3		1			
	分子生物学実習	3前	1			2	2	1	1		
	臨床検査医学実習	3後	1			7	2	1	2		
	衛生系薬学実習	3前	1			1	1	1	1		
	早期体験実習	1後	1			3	2	5	2		
	医療系薬学実習I（調剤の基礎と情報収集）	3後	1			2	1	1	1		
	医療系薬学実習II（調剤の実践と服薬指導）	4前	1			1	1	1	1		
	病院・薬局事前実習I（実務実習で必要な基本的知識）	4前	2			1					
	病院・薬局事前実習II（実務実習で必要な基本的技能）	4後	2			1					
	病院・薬局実務実習I（主に病院での実習）	5通	10			1	1	1	1		
	病院・薬局実務実習II（主に薬局での実習）	5通	10			1	1	1	1		
	総合薬学演習I（主として物理・化学・生物・衛生）	6前	1			1	1	2	2		
	総合薬学演習II（主として薬理・薬剤・病態・実務）	6後	1			3	1	1			
	卒業研究	5通	4			11					
	小計(71科目)	-	140	0	0	17	9	5	5		
合計(155科目)		-	180	81	2	17	9	5	5	0	兼任40
卒業要件及び履修方法											

卒業要件 190単位
①総合教育 必修24単位
(人間系4単位、社会系4単位、自然・情報系11単位、総合系1単位、外国語系4単位)
②専門基礎 必修16単位
③専門 必修140単位
④総合教育科目・専門教育科目 選択10単位

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・ 担当	
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教		
専門教育科目	臨床検査医学	3前	2			1					
	薬物治療学I（神経精神系疾患、内分泌系疾患等）	4後	2			3					
	薬物治療学II（循環器系疾患、呼吸器系疾患等）	4後	2			1					
	薬物治療学III（症例・病態解析）	6前	2			5					
	物理薬剤学	2後	2			1					
	製剤設計とDDS	4前	2			1					
	臨床薬学I（調剤の基礎）	3後	2			2					
	臨床薬学II（調剤の実践）	4前	2			1					
	臨床薬学III（薬物療法の実践）	4後	2			1					
	臨床薬学IV（チーム医療・地域医療の実践その前に）	4通	1			1					
	薬物動態学	3後	2			1					
	臨床薬物動態学	4前	2			1					
	医薬品情報学I（医薬品情報の収集と活用）	3前	2			1					
	医薬品情報学II（EBMと臨床研究）	6前	1			1					
	衛生化学I（食品・栄養）	2後	2			1					
	衛生化学II（毒性・代謝）	3前	2			1					
	環境衛生学	3前	2			1					
	医療関係法規	4前	2			1					
	日本薬局方	3後	1			1					
	漢方医学I（漢方の基礎）	3後	2			1					
	漢方医学II（漢方の応用）	4前	1			1					
	OTC医薬品概論	3後	2			1					
	化学系薬学実習I（有機合成）	2前	1			1					
	化学系薬学実習II（天然資源）	2後	1			1					
	物理系薬学実習	2後	1			1					
	生物系薬学実習	4前	1			3					
	分子生物学実習	3前	1			2	2	1	1		
	臨床検査医学実習	3後	1			7	2	1	2		
	衛生系薬学実習	3前	1			1	1	1	1		
	早期体験実習	1後	1			3	2	5	2		
	医療系薬学実習I（調剤の基礎と情報収集）	3後	1			2	1	1	1		
	医療系薬学実習II（調剤の実践と服薬指導）	4前	1			1	1	1	1		
	病院・薬局事前実習I（実務実習で必要な基本的知識）	4前	2			1					
	病院・薬局事前実習II（実務実習で必要な基本的技能）	4後	2			1					
	病院・薬局実務実習I（主に病院での実習）	5通	10			1	1	1	1		
	病院・薬局実務実習II（主に薬局での実習）	5通	10			1	1	1	1		
	総合薬学演習I（主として物理・化学・生物・衛生）</td										

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
人間系	文学論	1前		2						兼1
	演劇論	1後		1						兼1
	心理学	1前	2	2						兼1
	哲学	1前	2	2						兼1
	コミュニケーション概論	1前	2	2						兼1
	雑談と傾聴～話す力と聞く力～	2前								
	人間学	1前		2				1		兼1
	倫理学	1後		2						兼1
	宗教学	1後		2						兼1
	日本近現代史	1後		2						兼1
	文化人類学	1前		2						兼1
	教育学	1後		2						兼1
	死生学-死を通して生を考える-	1前		2						兼1
社会系	法学	1前	2	2						兼1
	日本国憲法	1前		2						兼1
	社会学	1後		2						兼1
	国際関係論	1前		2						兼1
	国際医療福祉論	1後		2						兼1
	組織運営管理論	1前		2						兼1
	海外保健福祉事情 I (講義)	2前	1	1						兼1
	海外保健福祉事情 II (実習)	2通								兼1
	社会保障制度論	1前		2						兼1
	ボランティア論	1後		2						兼1
総合教育科目	経済の仕組み	1後		2						兼1
	統計学	1後	2	2						兼1
	数学	1前		2						兼1
	物理学	1前		2						兼1
	化学	1前		2				1		
	生物学	1前		2			1			
	情報処理	1前	1	2			1			
	生命倫理	1後		2			1			
	医学／医療史	1前		2						兼1
	大学入門講座 I (基礎)	1前	1	1						兼1
総合系	大学入門講座 II (展開)	1前		1						兼1
	郷土論～大川学～	1前		1						兼1
	医療福祉教養講義	1後		1						兼1
	メディカルマナー入門	1前		2						兼1
	英語講読1 (Primary)	1後	1							兼1
外国語系	英語講読2 (Basic)	2前	1							兼1
	英語CALL1 (Primary)	1前	1							兼1
	英語CALL2 (Basic)	2後	1							兼1
	英会話	1後		1				1		兼1
	実用英会話	2前		1				1		兼1
	医学英語 I (入門)	1前		1			1			兼1
	医学英語 II (応用)	1後		1			1			兼1
	資格英語1 (Primary)	1前		1						兼1
	資格英語2 (Basic)	1後		1						兼1
	中国語	1通		2						兼1
外国語系	実用中国語会話	2前		1						兼1
	韓国語	1通		2						兼1
	実用韓国語会話	2前		1						兼1
	作文・説解 I (入門)	1前		1						兼1
	作文・説解 II (応用)	1前		1						兼1
日本語科目	作文・説解 III (完成)	1後		1						兼1
	文法・語彙 I (入門)	1前		1						兼1

【令和2年度】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置				兼任・ 兼担		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師			
総合教育科目	外国語系	文法・語彙Ⅱ（応用）	1前	1	1					兼1		
		文法・語彙Ⅲ（完成）	1前	1	1					兼1		
		発表・討論Ⅰ（応用）	1前	1	1					兼1		
		発表・討論Ⅱ（完成）	1後	1	1					兼1		
		医療福祉専門漢字	1前	1	1					兼1		
		医療福祉専門語彙	1後	1	1					兼1		
		日本語基礎Ⅰ（初級）	1後	1	1					兼1		
		日本語基礎Ⅱ（初級）	1後	1	1					兼1		
	保健系	健康科学理論	1後	1	1					兼1		
		健康科学実践	1後	1	1					兼1		
小計(65科目)			-	24	70	2	0	3	1	1	兼36	
専門基礎科目	学部共通	公衆衛生学	3後	2	1		1	1	2		兼1	
		救急医学(救命救急を含む)	2前	2	2		3	2	1		兼1	
		リハビリテーション概論	1前	2	2		1				兼1	
		微生物と病気	1後	2	2						兼1	
		関連職種連携論	2後	2	1						兼1	
		ケアマネジメント論	2前	2	2						兼1	
		保健医療福祉制度論	1前	2	2						兼1	
		臨床心理学概論	1後	2	2						兼1	
	薬学科	関連職種連携ワーク	3前	1	1				1		兼1	
		関連職種連携実習	5前	1	2				1		兼1	
		リスクマネジメント論	3前	2	2						兼1	
		薬学演習Ⅰ(物理系等)	2後	1	1				1			
		薬学演習Ⅱ(化学系等)	3前	1	1				1			
		薬学演習Ⅲ(生物系等)	3後	1	1				1			
		薬学計算	2前	1	1		1	1	2	1		
		病原微生物学	3前	2	2		2	2	1	1		
		コミュニケーション実習	2前	1	1		1	3				
		基礎薬学実習Ⅰ(物理)	1後	1	1		1	1	1	1		
		基礎薬学実習Ⅱ(生物)	1後	1	1		1	3				
小計(19科目)			-	16	11	0	7	5	5	4	0	兼8
専門教育科目	専門科目	薬学概論	1前	2	2		5	3	2		兼1	
		有機化学Ⅰ(脂肪族化合物1)	1後	2	2		1	1			兼1	
		有機化学Ⅱ(脂肪族化合物2)	2前	2	2		1	1			兼1	
		有機化学Ⅲ(芳香族化合物)	2後	2	2						兼1	
		生薬学	2前	2	2		1				兼1	
		天然物化学	2後	1	1						兼1	
		医薬品構造化学	3後	1	1						兼1	
		分析化学Ⅰ(溶液中の化学平衡と滴定法)	1後	2	2						兼1	
		分析化学Ⅱ(機器分析、分離分析および臨床分析)	2前	2	2		1	1	1	2		
		医薬品構造解析	2後	2	2		1	1	1			
		薬品物理化学Ⅰ(物性とエネルギー)	1後	2	2		1	1	1			
		薬品物理化学Ⅱ(平衡と変化)	2前	2	2		1	1	1			
		放射化学	2前	1	1							
		生化学Ⅰ(生体分子)	1後	2	2							
		生化学Ⅱ(生体エネルギー・代謝)	2前	2	2		1	1	1			
	専門科目	分子生物学Ⅰ(遺伝情報・細胞内情報伝達)	2前	2	2		1	1	1	1		
		分子生物学Ⅱ(細胞間コミュニケーション・遺伝)	2後	2	2		1	1	1	1		
		解剖生理学Ⅰ(外皮系、骨格系・筋肉系、循環器系)	1後	2	2		1	1	1			
		解剖生理学Ⅱ(神経系、内分泌系)	2前	2	2		4				兼1	
		解剖生理学Ⅲ(消化器系、呼吸器系、泌尿器系)	2後	2	2		5					
		がん薬物療法学	3前	2	2		1	1	1			
		ゲノム医療	3後	1	1							
		化学療法学	3後	2	2		1	1	1			
		免疫学	2後	2	2		1	1	1			
		疾病と病態生理学Ⅰ(内分泌系、神経精神系疾患等)	2後	2	2							
		疾病と病態生理学Ⅱ(循環器系疾患、消化器系疾患等)	3前	2	2		2	1	1			
		疾病と病態生理学Ⅲ(呼吸器系疾患、代謝性疾患等)	3後	2	2		1	1	1	1		
		薬理学Ⅰ(総論、末梢神経薬理等)	3前	2	2		1	1	1			
		薬理学Ⅱ(中枢神経薬理、免疫・炎症薬理等)	3後	2	2							
		薬理学Ⅲ(循環器薬理、消化器薬理等)	4前	2	2							
		薬理学Ⅳ(呼吸器薬理、内分泌薬理等)	4前	2	2		1	1	1			
		医薬品安全性学	4後	2	2		2					

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
専門教育科目	臨床検査医学	3前	2			1				
	薬物治療学I（神経精神系疾患、内分泌系疾患等）	4後	2		3					
	薬物治療学II（循環器系疾患、呼吸器系疾患等）	4後	2		1			1		
	薬物治療学III（症例・病態解析）	6前	2		5	1	1	1		
	物理薬剤学	2後	2				1			
	製剤設計とDDS	4前	2			1				
	臨床薬学I（調剤の基礎）	3後	2					1		
	臨床薬学II（調剤の実践）	4前	2			1			3	
	臨床薬学III（薬物療法の実践）	4後	2					1	3	
	臨床薬学IV（チーム医療・地域医療の実践その前に）	4通	1			1		2	3	
	薬物動態学	3後	2			1				
	臨床薬物動態学	4前	2			1				
	医薬品情報学I（医薬品情報の収集と活用）	3前	2					1		
	医薬品情報学II（EBMと臨床研究）	6前	1			1		2		
	衛生化学I（食品・栄養）	2後	2			1				
	衛生化学II（毒性・代謝）	3前	2			1				
	環境衛生学	3前	2			1				
	医療関係法規	4前	2			1		2		
	日本薬局方	3後	1							兼任1
	漢方医学I（漢方の基礎）	3後	2							兼任1
	漢方医学II（漢方の応用）	4前	1							兼任1
	OTC医薬品概論	3後	2						3	
	化学系薬学実習I（有機合成）	2前	1			1	1		2	
	化学系薬学実習II（天然資源）	2後	1			1	1		2	
	物理系薬学実習	2後	1			2	1	1	1	
	生物系薬学実習	4前	1			3	1		1	
	分子生物学実習	3前	1			2	3	1		
	臨床検査医学実習	3後	1			5	1		1	
	衛生系薬学実習	3前	1			2		2	1	
	早期体験実習	1後	1			3		4	1	
	医療系薬学実習I（調剤の基礎と情報収集）	3後	1			1		1	3	
	医療系薬学実習II（調剤の実践と服薬指導）	4前	1			1		1	3	
	病院・薬局事前実習I（実務実習で必要な基本的知識）	4前	2			1				
	病院・薬局事前実習II（実務実習で必要な基本的技能）	4後	2			1				
	病院・薬局実務実習I（主に病院での実習）	5通	10			1		1	3	
	病院・薬局実務実習II（主に薬局での実習）	5通	10			1		1	3	
	総合薬学演習I（主として物理・化学・生物・衛生）	6前	1			1	1	2	2	
	総合薬学演習II（主として薬理・薬剤・病態・実務）	6後	1			3	1	1		
	卒業研究	5通	4			19				
	小計(71科目)	-	140	0	0	21	8	6	7	兼任3
合計(155科目)		-	180	81	2	21	8	6	7	0
卒業要件及び履修方法										
卒業要件 190単位										
①総合教育 必修24単位 (人間系4単位、社会系4単位、自然・情報系11単位、総合系1単位、外国語系4単位)										
②専門基礎 必修16単位										
③専門 必修140単位										
④総合教育科目・専門教育科目 選択10単位										

- (注)
 - 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- 「倫理学」を「兼1」から「講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「化学」を「教授1」から「助教1」に変更（教員の負荷を考慮）。
- 「数学」を「1後」から「1前」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「情報処理」を「兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「生命倫理」を「兼1」から「講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「英語講読1 (Primary)」を「准教授1、兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。□
- 「英語CALL1 (Primary)」を「准教授1、兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。□
- 「英会話」を「准教授1、兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。□
- 「医学英語I (入門)」を「准教授1、兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。□
- 「医学英語II (応用)」を「准教授1、兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。□
- 「微生物と病気」を「兼1」から「教授2、准教授2、講師1」に変更（負荷軽減）。
- 「基礎薬学実習II (生物)」を「教授2、准教授3」から「教授1、准教授3」に変更（教育上の効果を考慮）。□
- 「薬学概論」を「教授1」から「教授5、准教授3、講師2」に変更し、開講時期を「1後」から「1前」に変更（教育上の効果を考慮）。□
- 「分析化学I (溶液中の化学平衡と滴定法)」を「教授1」から「兼1」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。□
- 「医薬品構造解析」を「教授1、講師1、助教1」から「教授1、講師1、助教2」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「分子生物学I (遺伝情報・細胞内情報伝達)」を「准教授1」から「准教授1、講師1」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「分子生物学II (細胞間コミュニケーション・遺伝)」を「准教授1」から「准教授1、講師1」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「解剖生理学III (消化器系、呼吸器系、泌尿器系)」を「教授4」から「教授5」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「疾病と病態生理学III (呼吸器系疾患、代謝性疾患等)」を「教授1、准教授1」から「教授1、准教授1、講師1」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。
- 「臨床検査医学」を「教授1、准教授1」から「教授1」に変更（就任辞退による。教育上の支障はない）。
- 「薬物治療学I (神経精神系疾患、内分泌系疾患等)」を「教授2」から「教授3」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「薬物治療学II (循環器系疾患、呼吸器系疾患等)」を「教授1」から「教授1、助教1」に変更（追加採用による。負荷軽減）。□
- 「薬物治療学III (症例・病態解析)」を「教授4、准教授1」から「教授5、准教授1、講師1、助教1」に変更（追加採用による。負荷軽減）。
- 「化学系薬学実習I (有機合成)」を「教授1、准教授2、助教1」から「教授1、准教授1、助教2」に変更（就任辞退による。教育上の支障はない）。
- 「化学系薬学実習II (天然資源)」を「教授1、准教授2、助教1」から「教授1、准教授1、助教2」に変更（就任辞退による。教育上の支障はない）。
- 「生物系薬学実習」を「教授3、准教授1」から「教授3、准教授1、助教1」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「分子生物学実習」を「教授2、准教授3」から「教授2、准教授3、助教1」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「臨床検査医学実習」を「教授4、准教授2」から「教授5、准教授1、助教1」に変更（追加採用・就任辞退による）。□
- 「早期体験実習」を「教授2、講師3」から「教授3、講師4、助教1」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□
- 「総合薬学演習I (主として物理・化学・生物・衛生)」を「教授1、准教授1、講師1」から「教授1、准教授1、講師2、助教2」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。□

【令和3年度】

- 「法学」を「兼1」から「講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「日本国憲法」を「兼1」から「講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「英語講読2 (Basic)」を「兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「英語CALL2 (Basic)」を「兼1」から「准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「英会話」を「准教授1」から「兼1」に変更（負荷軽減）。
- 「薬学演習I (物理系等)」を「講師1」から「教授1、准教授4、講師1、助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学演習II (化学系等)」を「助教1」から「助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学計算」を「教授1」から「准教授3、講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「コミュニケーション実習」を「教授2、講師2、助教1」から「教授2、講師3、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「基礎薬学実習I (物理)」を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更（就任辞退。教育上の支障なし）。
- 「基礎薬学実習II (生物)」を「教授1、准教授3」から「教授1、准教授3、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学概論」を「教授5、准教授3、講師2、兼1」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「有機化学II (脂肪族化合物2)」を「准教授1」から「教授1」に変更（就任に伴う変更）。
- 「分析化学II (機器分析、分離分析および臨床分析)」を「教授1」から「兼1」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「医薬品構造解析」を「教授1、講師1、助教2」から「教授1、准教授1、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「分子生物学II (細胞間コミュニケーション・遺伝)」を「准教授1」から「教授1、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「解剖生理学II (神経系、内分泌系)」を「教授4、兼1」から「教授3、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「解剖生理学III (消化器系、呼吸器系、泌尿器系)」を「教授5」から「教授1」に変更（就任遅延等による。教育上の支障なし）。
- 「免疫学」を「教授1」から「教授2」に変更（就任による負荷軽減）。
- 「疾病と病態生理学I (内分泌系、神経精神系疾患等)」を「准教授1」から「教授3、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬理学I (総論、末梢神経薬理等)」を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更（追加採用による。負荷軽減）。
- 「薬理学IV (呼吸器薬理、内分泌薬理等)」を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更（追加採用による。負荷軽減）。
- 「薬物治療学I (神経精神系疾患、内分泌系疾患等)」を「教授3」から「教授3、准教授1」に変更（追加採用による。教育上の効果を考慮）。
- 「薬物治療学II (循環器系疾患、呼吸器系疾患等)」を「教授1、助教1」から「教授1、准教授1、助教1」に変更（追加採用による。負荷軽減）。
- 「薬物治療学III (症例・病態解析)」を「教授5、准教授1、講師1、助教1」から「教授5、准教授2、講師1、助教1」に変更（追加採用による。負荷軽減）。
- 「物理薬剤学」を「准教授1」から「教授1、准教授1」に変更（教育上の効果を配慮）。
- 「臨床薬学II (調剤の実践)」を「教授1、助教3」から「教授1、助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「臨床薬学III (薬物療法の実践)」を「講師1、助教3」から「講師1、助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「臨床薬学IV (チーム医療・地域医療の実践その前に)」を「教授1、講師2、助教3」から「教授1、講師2、助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「衛生化学I (食品・栄養)」を「教授1」から「講師1」に変更（負荷軽減）。
- 「OTC医薬品概論」を「助教3」から「助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「物理系薬学実習」を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「早期体験実習」を「教授3、講師4、助教1」から「教授2、准教授1、講師5、助教4」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「医療系薬学実習I (調剤の基礎と情報収集)」を「教授1、講師1、助教3」から「教授1、講師1、助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「医療系薬学実習I (調剤の基礎と情報収集)」を「教授1、講師1、助教3」から「教授1、講師1、助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「病院・薬局実務実習I (主に病院での実習)」を「教授1、講師1、助教3」から「教授1、講師1、助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「病院・薬局実務実習II (主に薬局での実習)」を「教授1、講師1、助教3」から「教授1、講師1、助教1、兼1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「卒業研究」を「教授19」から「教授18」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。

【令和4年度】

- 「大学入門講座I（基礎）」を「兼1」から「教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「大学入門講座II（展開）」を「兼1」から「教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「英語講説1（Primary）」を「准教授1」から「兼1」に変更（自己都合による退職。教育上の支障なし）。
- 「英語講説2（Basic）」を「准教授1」から「兼1」に変更（自己都合による退職。教育上の支障なし）。
- 「英語CALL1（Primary）」を「准教授1」から「兼1」に変更（自己都合による退職。教育上の支障なし）。
- 「英語CALL2（Basic）」を「准教授1」から「兼1」に変更（自己都合による退職。教育上の支障なし）。
- 「医学英語I（入門）」を「准教授1」から「兼1」に変更（自己都合による退職。教育上の支障なし）。
- 「医学英語II（応用）」を「准教授1」から「兼1」に変更（自己都合による退職。教育上の支障なし）。
- 「公衆衛生学」を「教授1、講師2」から「教授1、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「関連職種連携ワーク」を「講師1」から「教授1、准教授1、講師4、助教4」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学演習II（化学系等）」を「助教2」から「教授2、准教授2、講師1、助教3」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学演習III（生物系等）」を「助教1」から「教授1、准教授3、講師2、助教3」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学計算」を「准教授3、講師1、助教1」から「准教授3、講3、助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「コミュニケーション実習」を「教授2、講師3、助教1」から「教授2、准教授1、講師3、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「基礎薬学実習I（物理）」を「教授1、准教授3、講師1」から「教授2、准教授2、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「基礎薬学実習II（生物）」を「教授1、准教授3」から「教授1、准教授3、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学概論」を「教授5、准教授3、講師2、兼1」から「教授5、准教授3、講師2」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「分析化学I（溶液中の化学平衡と滴定法）」を「兼1」から「講師1、兼1」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「分析化学II（機器分析・分離分析および臨床分析）」を「兼1」から「教授1、兼1」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「解剖生理学II（神経系・内分泌系）」を「教授3、助教1」から「教授1」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「解剖生理学III（消化器系・呼吸器系・泌尿器系）」を「教授1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「疾病と病態生理学II（循環器系疾患・消化器系疾患等）」を「教授2、准教授1」から「教授2、講師1」に変更（就任辞退等による担当者変更）。
- 「疾病と病態生理学III（呼吸器系疾患・代謝性疾患等）」を「教授1、准教授1」から「教授2」に変更（就任辞退等による担当者変更）。
- 「薬理学II（中枢神経薬理・免疫・炎症薬理等）」を「准教授1」から「教授1、准教授1」に変更（就任辞退等による担当者変更）。
- 「医薬品安全性学」を「教授2」から「教授1」に変更（就任辞退等による担当者変更。教育上の支障なし）。
- 「薬物治療学I（神経精神系疾患・内分泌系疾患等）」を「教授3、准教授1」から「教授3」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「薬物治療学II（循環器系疾患・呼吸器系疾患等）」を「教授1、准教授1、助教1」から「教授1、助教1」に変更（教員の負担軽減。教育上の支障なし）。
- 「薬物治療学III（症例・病態解析）」を「教授5、准教授2、講師1、助教1」から「教授5、講師1、助教1」に変更（教員の負担軽減。教育上の支障なし）。
- 「臨床薬学I（調剤の基礎）」を「講師1」から「教授2、講師1」に変更（教育上の効果を考慮。より専門であること）。
- 「臨床薬学I（調剤の基礎）」を「教授1」から「教授2、講師1」に変更（教育上の効果を考慮。追加採用に伴う補充）。
- 「臨床薬学II（調剤の実践）」を「教授1、助教1、兼1」から「教授1、准教授1」に変更（就任辞退による変更）。
- 「臨床薬学III（薬物療法の実践）」を「講師1、助教1、兼1」から「准教授1、講師1」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「臨床薬学IV（チーム医療・地域医療の実践その前に）」を「教授1、講師2、助教1、兼1」から「教授1、准教授1、講師2」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「薬物動態学」を「教授1」から「教授2」に変更（追加採用に伴う負荷軽減）。
- 「臨床薬物動態学」を「教授1」から「教授2」に変更（追加採用に伴う負荷軽減）。
- 「医薬品情報学I（医薬品情報の収集と活用）」を「講師1」から「教授1、准教授1、講師2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「環境衛生学」を「教授1」から「准教授1」に変更（負荷軽減）。
- 「医療関係法規」を「教授1、講師2」から「講師2」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。
- 「日本薬局方」を「兼1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「漢方医学I（漢方の基礎）」を「兼1」から「准教授1」に変更（追加採用に伴う変更）。
- 「漢方医学II（漢方の応用）」を「兼1」から「准教授1」に変更（追加採用に伴う変更）。
- 「OTC医薬品概論」を「助教1、兼1」から「教授1、准教授1、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「化学系薬学実習II（天然資源）」を「教授1、准教授1、助教2」から「教授1、准教授2、助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「生物系薬学実習」を「教授3、准教授1、助教1」から「教授3、助教1」に変更（就任辞退等による。教育上の支障なし）。
- 「分子生物学実習」を「教授2、准教授3、助教1」から「教授2、准教授2、講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「臨床検査医学実習」を「教授5、准教授1、助教1」から「教授7、准教授2、講師1、助教2」に変更（就任辞退による担当者変更。教育上の効果を考慮）。
- 「衛生系薬学実習」を「教授2、講師2、助教1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「早期体験実習」を「教授2、准教授1、講師5、助教4」から「教授3、准教授2、講師5、助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「医療系薬学実習I（調剤の基礎と情報収集）」を「教授1、講師1、助教1、兼1」から「教授2、准教授1、講師1、助教1」に変更（就任辞退等による。教育上の支障なし）。
- 「医療系薬学実習II（調剤の実践と服薬指導）」を「教授1、講師1、助教1、兼1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更（兼任から専任への変更による。教育上の支障なし）。
- 「病院・薬局実務実習I（主に病院での実習）」を「教授1、講師1、助教1、兼1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更（兼任から専任への変更による。教育上の支障なし）。
- 「病院・薬局実務実習II（主に薬局での実習）」を「教授1、講師1、助教1、兼1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更（兼任から専任への変更による。教育上の支障なし）。
- 「卒業研究」を「教授18」から「教授11」に変更（就任辞退による。教育上の支障なし）。

【令和5年度】

- 「海外保健福祉事情I（講義）」を「兼1」から「講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「大学入門講座I（基礎）」を「教授1」から「教授1、助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「大学入門講座II（展開）」を「教授1」から「教授1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「関連職種連携論」を「兼任1」から「教授2、兼任1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「関連職種連携実習」を「兼任1」から「兼任3」へ変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学演習I（物理系等）」を「教授1、准教授4、講師1、助教2」から「教授1、准教授4、講師1、助教3」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学演習II（化学系等）」を「教授2、准教授2、講師1、助教3」から「教授2、准教授3、講師1、助教」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬学計算」を「准教授3、講3、助教2」から「准教授3、講3、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「コミュニケーション実習」を「教授2、准教授1、講師3、助教1」から「教授2、准教授2、講師3、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「天然物化学」を「准教授1」から「教授1」に変更（新規教員採用による担当者変更）。
- 「疾病と病態生理学III（呼吸器系疾患・代謝性疾患等）」を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更（定年退職による担当者変更）。
- 「薬理学III（循環器薬理・消化器薬理等）」を「准教授1」から「教授2、准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬理学IV（呼吸器薬理・内分泌薬理等）」を「教授1、准教授1」から「教授3、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「医薬品安全性学」を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬物治療学I（神経精神系疾患・内分泌系疾患等）」を「教授3」から「教授2、講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬物治療学II（循環器系疾患・呼吸器系疾患等）」を「教授1、助教1」から「教授4、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「製剤設計とDDS」を「教授1」から「教授2、講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「臨床薬学I（調剤の基礎）」を「教授2、講師1」から「教授2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「臨床薬学III（薬物療法の実践）」を「准教授1、講師1」から「教授1、准教授1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「臨床薬学IV（チーム医療・地域医療の実践その前に）」を「教授1、准教授1、講師2」を「教授2、准教授1、講師2、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「薬物動態学」を「教授2」から「教授2、助教1」に変更（教員の負荷軽減）。
- 「臨床薬物動態学」を「教授2」から「教授2、助教1」に変更（教員の負荷軽減）。
- 「漢方医学II（漢方の応用）」を「准教授1」から「准教授1、講師1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「化学系薬学実習I（有機合成）」を「教授1、准教授2、助教2」から「教授2、准教授1、助教2」に変更（新規教員採用による担当者変更）。
- 「化学系薬学実習II（天然資源）」を「教授1、准教授2、助教2」から「教授2、准教授2、助教2」に変更（新規教員採用による担当者追加）。
- 「生物系薬学実習」を「教授3、助教1」から「教授2、准教授1、講師1、助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「分子生物学実習」を「教授2、准教授2、講師1、助教1」から「教授2、准教授2、助教1」に変更（他の実習科目との調整）。
- 「臨床検査医学実習」を「教授7、准教授2、講師1、助教2」から「教授6、准教授1、講師3、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「早期体験実習」を「教授3、准教授2、講師5、助教2」から「教授3、准教授3、講師4、助教2」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「医療系薬学実習II（調剤の実践と服薬指導）」を「教授1、准教授1、講師1、助教1」から「教授1、准教授1、講師1」に変更（他の実習科目との調整）。
- 「病院・薬局事前実習I（実務実習で必要な基本的知識）」を「教授1」から「教授11、准教授8、講師3、助教4」に変更（教育上の効果を考慮）。
- 「病院・薬局実務実習II（主に薬局での実習）」を「教授1」から「教授2、准教授1、講師1、助教1」に変更（教育上の効果を考慮）。

- (注)
 - ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
99 科目	54 科目	2 科目	155 科目	99 科目 []	54 科目 []	2 科目 []	155 科目 []	

- (注)
 - 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）
 - 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)
 - 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)
 - 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注)
 - 授業科目を未開講又は廃止したことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{155} = \boxed{0} \%$$

- (注) · 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
· 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容					備考	
(1) 校地等	区分		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 福岡看護学部の設置者変更等に伴う変更(3)	
	校舎敷地		268,532 m ² 258,383 m ² 276,538 m ²	0 m ²	0 m ²	268,532 m ² 258,383 m ² 276,538 m ²		
	運動場用地		100,751 m ²	0 m ²	0 m ²	100,751 m ²		
	小計		369,283 m ² 359,134 m ² 377,289 m ²	0 m ²	0 m ²	369,283 m ² 359,134 m ² 377,289 m ²		
	その他		113,975 m ²	0 m ²	0 m ²	113,975 m ²		
	合計		483,258 m ² 473,109 m ² 491,264 m ²	0 m ²	0 m ²	483,258 m ² 473,109 m ² 491,264 m ²		
(2) 校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 福岡看護学部の設置者変更等に伴う変更(3)		
		222,076 m ² 217,133 m ² 223,203 m ² (189,135 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	222,076 m ² 217,133 m ² 223,203 m ² (189,135 m ²)			
(3) 教室等		講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 福岡看護学部の設置者変更等に伴う変更(3)	
		209室 201室 216室	189室 179室 194室	363室 323室 327室	23室 24室 (補助職員 8人)	9室 10室 (補助職員 0人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室数		大学全体 福岡看護学部の設置者変更等に伴う変更(3)	
		福岡薬学部			377 403	室 室		
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標本	大学全体 福岡看護学部の設置者変更等に伴う変更(3)
		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	[うち外国書]	77点	点	点	
	福岡薬学部	258,087[30,478] 231,359[32,678] (191,759[25,797])	4,563[915] 4,943[1,411] (4,623[1,302])	11,457[9,979] 7,837[6,493] (7,837[6,493])	6,943 (5,175)	132,726 130816 (92,550)	2,195 (1,681)	
	計	258,087[30,478] 231,359[32,678] (191,759[25,797])	4,563[915] 4,943[1,411] (4,623[1,302])	11,457[9,979] 7,837[6,493] (7,837[6,493])	6,943 (5,175)	132,726 130816 (92,550)	2,195 (1,681)	
(6) 図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体 福岡看護学部の設置者変更等に伴う変更(3)
		8,081 m ² 8,564 m ²		1,691席 1,853席		354,777 冊 367,360 冊		
(7) 体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		7,456 m ²		弓道場		テニスコート		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	44,000千円	6,000千円	図書購入費	17,391千円 44,000千円	6,000千円	6,000千円
	共同研究費等		339,031千円	3,500千円	設備購入費	264,209千円 339,031千円	377,136千円 275,400千円	3,500千円
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,750千円	1,630千円	1,630千円	1,630千円	1,630千円	1,630千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入 等					

- (注)
 - ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5) 図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	国際医療福祉大学										平均入学定員 超過率0.7倍以下 の学科数	0	平均入学定員 超過率1.15倍 以上の学科数	0	収容定員充足 率0.7倍以下の 学科数	0	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考					
医学部	6	140	—	840	—	1.00	—	0.98	—	—	平成29年度	—						
医学科	6	140	—	840	学士 (医学)	1.00	—	0.98	—	—	平成29年度	千葉県成田市公 津の杜4丁目3番						
保健医療学部	4	535	—	2140	—	1.02	—	1.02	—	—	平成7年度	—						
看護学科	4	115	—	460	学士 (看護学)	1.03	—	1.00	—	—	平成7年度	栃木県大田原市 北金丸2600番1						
理学療法学科	4	100	—	400	学士 (理学療法学)	1.02	—	1.02	—	—	平成7年度	同上						
作業療法学科	4	80	—	320	学士 (作業療法学)	1.01	—	1.03	—	—	平成7年度	同上						
言語聴覚学科	4	80	—	320	学士 (言語聴覚学)	1.03	—	1.00	—	—	平成7年度	同上						
視機能療法学科	4	50	—	200	学士 (視機能療法学)	1.05	—	1.04	—	—	平成14年度	同上						
放射線 ・情報科学科	4	110	—	440	学士 (放射線・情報科 学)	1.04	—	1.06	—	—	平成7年度	同上						
医療福祉学部	4	140	5	570	—	1.01	—	0.99	—	—	平成9年度	—						
医療福祉・マネジメント学部	4	140	5	570	学士 (医療福祉学) 学士 (医療マネジメント 学)	1.01	—	0.99	—	—	平成9年度	同上						
薬学部	6	180	—	1,080	—	1.04	—	0.98	—	—	平成18年度	—						
薬学科	6	180	—	1,080	学士 (薬学)	1.04	—	0.98	—	—	平成18年度	同上						
小田原保健医療学部	4	200	—	800	—	1.07	—	1.06	—	—	平成18年度	—						
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.06	—	1.04	—	—	平成18年度	神奈川県小田原市 城山一丁目2番25号						
理学療法学科	4	80	—	320	学士 (理学療法学)	1.08	—	1.09	—	—	平成18年度	同上						
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	1.08	—	1.06	—	—	平成18年度	同上						
福岡保健医療学部	4	220	—	880	—	1.04	—	1.03	—	—	平成17年度	—						
看護学科	4	60	—	60	学士 (看護学)	1.03	—	1.03	—	—	令和5年度	福岡県大川市榎 津137-1						
理学療法学科	4	50	—	230	学士 (理学療法学)	1.06	—	1.1	—	—	平成17年度	同上	令和5年度より入学定員変更 (60→50)					
作業療法学科	4	30	—	150	学士 (作業療法学)	0.98	—	0.92	—	—	平成17年度	同上	令和5年度より入学定員変更 (40→30)					
言語聴覚学科	4	—	—	120	学士 (言語聴覚学)	0.95	—	0.92	—	—	平成19年度	同上	令和5年度入学生より学生募集停止 (40→0)					
医学検査学科	4	80	—	320	学士 (医学検査学)	1.09	—	1.08	—	—	平成25年度	同上						
福岡薬学部	6	120	—	480	—	1.05	—	1.01	—	—	令和2年度	—						
薬学科	6	120	—	480	学士 (薬学)	1.05	—	1.01	—	—	令和2年度	同上						
成田看護学部	4	100	—	400	—	1.06	—	1.06	—	—	平成28年度	—						
看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.06	—	1.06	—	—	平成28年度	千葉県成田市公 津の杜4丁目3番						
成田保健医療学部	4	290	—	1,160	—	1.06	—	1.04	—	—	平成28年度	—						
理学療法学科	4	80	—	320	学士 (理学療法学)	1.07	—	1.05	—	—	平成28年度	同上						
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	1.06	—	1.04	—	—	平成28年度	同上						
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士 (言語聴覚学)	1.05	—	1.04	—	—	平成28年度	同上						
放射線・情報科学科	4	50	—	200	学士 (放射線・情報科 学)	1.08	—	1.03	—	—	令和2年度	同上						
医学検査学科	4	80	—	320	学士 (医学検査学)	1.06	—	1.05	—	—	平成28年度	同上						
赤坂心理・医療福祉 マネジメント学部	4	120	—	480	—	1.01	—	0.98	—	—	平成30年度	—						
心理学科	4	60	—	240	学士 (心理学)	1.05	—	1.03	—	—	平成30年度	東京都港区赤坂4 丁目1-26						
医療マネジメント 学科	4	60	—	240	学士 (医療マネジメント 学)	0.98	—	0.94	—	—	平成30年度	同上						
大学全体	4	180	3年次 10	740	—	—	—	—	—	—	—	—						

-
- (注)
 - ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
(様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとに、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度A.Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の
入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年)	該当なし		

- (注)
 - 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
 - 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

- 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜福岡薬学部 薬学科＞

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
早期体験実習について	早期体験実習における「薬局」での見学実習について、病院・薬局実務実習九州・山口地区調整機構より、各校の円滑な実習施設配分を促進するため、実務実習と同様に機構内で調整するとの指導があり、これに沿って見学実習を行うこととした。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関する留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制
a 委員会の設置状況
学則に基づき大学としてFD委員会を置き、大川キャンパスには「大川キャンパスFD委員会」を設置している。 (資料1「国際医療福祉大学FD委員会規程」)
b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
大川キャンパスFD委員会は毎月1回程度開催される。福岡保健医療学部、福岡薬学部合同で、9名の委員によるFD委員会を11回開催した。
c 委員会の審議事項等
FD研修会の企画・運営、教員の資質向上、授業評価アンケートの実施等を審議する。
② 実施状況
1. 全キャンパス合同FD研修会
令和4年度は、全キャンパス合同で2回の研修会が開催された。9月には小田原キャパス主催で「これからの専門職に求められる理念について-財政社会学の視点から-」というテーマで開催された。 また、3月には「学生が選ぶグッドティーチング賞受賞者報告会」が開催され、グッドティーチング賞を受賞した教員の教授法の紹介など各キャンパスより報告された。
2. 大川キャンパスFD研修会
令和4年度は、7月に「科研費獲得に向けて」と題し、科研費申請の心得とその具体的な記入方法について講演がなされた。その他、ミニFDとして、関連職種連携教育の他、各学科の教員が実践している教育法や研究成果をわかりやすく紹介する研修会も実施している。 <ミニFD> 2022年7月：「科研費採択に向けて」 2022年10月：「学内教員に学ぶ教授法」
3. 福岡薬学部FD活動
令和4年度は、福岡薬学部独自のFD研修を3回実施した。令和5年度に実施される共用試験およびOSCEの目的および概要について講演がなされた。 <ミニFD> 2022年5月：「学内教員に学ぶ教授法」 2022年11月：「共用試験について」 2023年2月：「福岡薬学部2023年度OSCEの概要」

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業評価アンケートは、全ての科目を授業の最終回で実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員に対しては、科目ごとの集計結果について、全て公表しをフィードバックしている。

全体の集計結果については、学内のシステム上に掲示し、学生が自由に閲覧できるよう措置している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、建学以来、病気や障害を持つ人も健常な人もお互いを認めあう「共に生きる社会」の実現を教育理念に掲げ、また21世紀の健康、医療、福祉を担うことができ、広い視野と国際性を身につけた人材の育成を教育目標としている。この理念・目標に沿って、より実践的な専門職教育を実現する方策の一つとして、実習教育を重視し、①臨床実習を体験する前の早い時期に病気や障害をもつ人と交流体験を通して様々な人々が共に生活する社会を学生に実感させる ②大学における知識・理論の講義と臨床現場での臨床実習を一体化させる ③チーム医療の成熟 を目指して、教育研究活動に取り組んでいる。

このような本学の特色を生かしつつ、薬学部においては、薬学の基礎から臨床応用までの講義、実習・演習を有機的に構成したカリキュラムによる教育に加え、本学の医療福祉系学部との共通カリキュラムによる医療人としての教育、さらに関連医療福祉施設における臨床実習により、高度な専門性を備え、医療人としてチーム医療に貢献できる人間性、社会性、国際性豊かな薬剤師を養成する全人教育を行うことを目指している。

1. 入学者の確保について

令和5年4月入学の第4期生募集に当たっては、福岡薬学部入学定員120名に対し985名の志願者（志願倍率3.0）があつた。昨年度の第3期生1,000名には及ばないものの、123名の学生を迎えることができた。本学の基本理念や、これまでの薬学教育に対する取り組み、国家試験の状況、福岡薬学部における育成方針などについて十分に理解が進み、浸透した成果であると考えている。今年度以降も引き続き、努力していきたいと考えている。

2. 関連職種連携教育

1年次必修科目「早期体験実習」では、病院見学、薬害に関する講義を開講し、早期に医療の現場に触れ、医療人になる心構えを養う。また、2年次必修科目「関連職種連携論」では、福岡薬学部・福岡保健医療学部合同で開講し、自職種のみならず他職種への理解を深めると共に、各職種間連携の在り方、実際の臨床現場での関わりなどを座学にて学修した。3年次必修科目「関連職種連携ワーク」では、学科横断チームで1つの症例について討議を重ね、報告会を行った。実際に「職種間連携とはなにか」を現実に考え、その重要性や問題点などを理解する機会となつた。

3. 海外保健福祉事情

福岡薬学部2年生を含む大川キャンパス2年生約350名を対象に、15の国・地域で2週間前後の海外研修を実施する予定であったが、新型コロナウィルスの世界的な感染拡大により、令和4年度も海外研修を中止することになった。この科目では海外の医療・福祉・教育機関で現地スタッフの指導のもと、医療福祉について学び、将来的に国際貢献できる医療専門職を育成する。代替措置として、協定校とオンラインでの講義を実施している。学生は渡航先別に班編成され、各施設の紹介ビデオ等を視聴する他、現地教員による講義をライブで受講する。現地に行くことができなかつたが、海外の医療提供体制や日本との相違点などを学ぶ良い機会となっている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和5年6月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開する。

③ 認証評価を受ける計画

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に關わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 · 無]

« a で「有」の場合»

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 · 公表後2~3ヶ月以内 · 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 · その他 ()]

« a で公表「無」の場合»

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。